

三鷹市立大沢台小学校 令和5年度 【音楽】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p><b>〈成果〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は音楽会があったため、合唱をしたり、鍵盤ハーモニカを中心に様々な楽器をつかったりして表現活動を楽しむことができた。</li> <li>また、六年生を送る会では、ボディーパーカッションも行い楽しんだ。</li> </ul> <p><b>〈課題〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お互いの音を聞き合ったり、感じたことを言葉で表現するのは、どのように表現していいのかわからない児童も多く、経験や表現力を伸ばしていく必要があると感じた。</li> </ul>	<p><b>〈学習状況の現状と課題〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リズム打ちや身体表現を楽しみながら、いろいろな表現を各自で工夫しているが、一斉指導のため、表現できる時間は限られている。</li> <li>曲や音色を楽しみながら聴いているが、友達と交流する学習ができていないため、互いのよさを共有したり、表現を広げたりすることが十分にできていない。</li> <li>音楽活動を楽しみながら学習に取り組んでいるが、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのある活動につながるような活動は不足している。</li> </ul>	<p><b>〈指導方法の課題〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鍵盤ハーモニカのタンギングや運指を正しく身に付けるためには個別指導が欠かせないが、授業時間だけでは不十分である。</li> <li>一斉指導の中で、表現活動をどのように広げていくかが課題である。</li> <li>基本的な知識や技能が身に付いていない状態で、音楽活動への興味・関心を維持していくことが難しい児童が見られる。</li> </ul> <p><b>〈授業改善策〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鍵盤ハーモニカでは、まずは運指を中心に、タンギングもできるだけ正しく身に付けられるよう、個人練習と全体学習のバランスを考え、家庭学習も取り入れながら授業を計画する。</li> <li>身体表現、歌唱、楽器の演奏、記述など学習用タブレット端末などのICT機器も用いているような表現方法を取り入れ、自分らしく表現活動を楽しめるよう工夫する。発表の際には、学習活動をあらかじめ設定し、聞くことの動機付けと表現する力を伸ばしていく。</li> <li>生活の中に音楽を取り入れていこうとする態度が身に付くよう、互いの活動や表現を見合う機会を設定し、音楽活動を楽しみ、協力して作り上げる意欲や興味をもたせる。</li> </ul>
第2学年	<p><b>〈成果〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>概ね意欲的に学習に取り組むことができた。</li> <li>簡単な三部合唱にも挑戦し、「ソプラノ」「アルト」などの言葉も自然に飛び交っている。</li> </ul> <p><b>〈課題〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習に対する意欲の個人差が非常に大きい。</li> <li>鍵盤ハーモニカの学習では、運指が確実ではない児童が数名見られる。</li> </ul>	<p><b>〈学習状況の現状と課題〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>曲想を感じ取って、強弱をつけて歌うことは出来るが、伴奏や友達の歌声を聴いて、それに合わせて歌うことが難しい児童がいる。</li> <li>鍵盤ハーモニカの演奏は好きな児童が多く、練習も熱心に行っているが、指遣いを正しく出来る児童は少ない。</li> <li>音楽に対する興味・関心が高くリズム遊びに意欲的に取り組んでいるが、曲に合わせた速度で合奏できる児童は少ない。</li> <li>音楽的な表現を楽しみ、生き生きと音楽活動に取り組む児童が多い。一方で、表現への意欲が乏しく、私語や悪ふざけにつながってしまう児童も複数見られる。</li> </ul>	<p><b>〈指導方法の課題〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の興味・関心に応じた題材や活動を選択して、どの児童にも分かりやすい言葉掛けを行う必要がある。</li> <li>友達と関わることで深めていく学習活動が少ない。</li> <li>集中力を持続できるような工夫や個別指導をさらに充実させる必要がある。</li> </ul> <p><b>〈授業改善策〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かす活動やリズム遊びを取り入れた表現活動を工夫し、体全体で拍の流れやリズムの違い、曲想を感じ取ることができるような学習を行う。</li> <li>音楽表現に対する意図や音楽鑑賞で感じたことなどを伝える際、どのように伝えたらよいかのわかるように「音楽でよく使う言葉の例」を掲示しておく。</li> <li>児童の興味・関心を把握し、教科書を基本として、題材に合った教材を厳選する。</li> </ul>
第3学年	<p><b>〈成果〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すでに学習に取り組むことができた。リコーダーの学習が始まり、興味・関心をもって取り組んでいる。</li> <li>響きのある声で3部合唱に取り組むことができた。</li> </ul> <p><b>〈課題〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リコーダーの運指がスムーズに出来るよう、個別に対応する必要がある。</li> <li>音符、休符、記号など基礎的な内容の指導を継続し、身に付ける必要がある。</li> </ul>	<p><b>〈学習状況の現状と課題〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>曲想にふさわしい演奏法や表現したい思いを表すための技能がつかっていない。</li> <li>楽曲のよさを感じ取って楽しみながら表現したり鑑賞したりすることは出来るが、楽曲の音楽を形作っている要素をもとに思考して、どう表現したり鑑賞したりしたいのかが考えを深められてはいない。</li> <li>題材や一単位時間の中で身に付ける目標を見出せずにいる児童が複数見られる。</li> </ul>	<p><b>〈指導方法の課題〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>楽譜を見てリズムや旋律、声部の重なり方、曲全体の構成などの特徴を十分把握する必要がある。</li> <li>全員が達成感や充実感を十分に味わうことができる授業になっていない。</li> </ul> <p><b>〈授業改善策〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人でじっくり考える場面やグループ活動など、題材の狙いや児童の実態に応じて多様な学習形態を設定する。</li> <li>思いや意図を言葉や音楽で伝え合ったり、実際に様々な奏法で演奏したりすることを繰り返し試す。音楽の語彙を表す言葉を掲示し、言語を増やすことを意識して発言したり、相互評価したりするときの言葉を意識させる。</li> <li>ペアやグループ、学級全体で楽曲をつくり上げる上で、友達と協働しながら音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさを見出したりできる場面をつくる。</li> </ul>
第4学年	<p><b>〈成果〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>落ち着いた雰囲気ですべての楽器で演奏することができた。</li> <li>リコーダーの運指がスムーズに出来るよう、個別に対応する必要がある。</li> <li>音符、休符、記号など基礎的な内容の指導を継続し、身に付ける必要がある。</li> </ul>	<p><b>〈学習状況の現状と課題〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一つの楽曲に含まれる様々な要素をバランスよく触れて授業を行っているが、本時の振り返りで、何を身に付けたかを振り返る際、焦点が絞られていないことがある。</li> <li>音楽の知識や技能が豊富な児童が積極的に発言して授業を先行する場面が多く見られる。</li> <li>明るい雰囲気ですべての楽器で演奏することが出来る児童が多い。</li> </ul>	<p><b>〈指導方法の課題〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>明確な目標の設定をする。</li> <li>音楽に対して苦手意識をもっている児童がじっくりと音楽と向き合う時間の確保をする。</li> <li>全員が達成感や充実感を十分に味わうことができる授業になっていない。</li> </ul> <p><b>〈授業改善策〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>曲の中に含まれるたくさんの音楽を特徴付けている要素から、本時に身に付けさせることを厳選し、学習計画を立てる。</li> <li>音楽に対して苦手意識がある児童に対しても、基本的な既習事項の確認など、発言する機会を毎時間設定し、皆で考えながら楽しく学んでいく雰囲気を作る。</li> <li>新しい学習の導入では、既習事項や日常生活と絡め、児童が理解しやすく、学習の意欲が高まるような工夫をする。</li> </ul>
第5学年	<p><b>〈成果〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童のつづきや発言を拾いながら学習活動へと導き、交流したり、共有したり、共感し合ったりしながら取り組むことができた。</li> <li>リコーダーは毎回演奏する時間を確保したことで自信が付き、ほとんどの児童が苦手意識もたずに演奏することができるようになった。</li> </ul> <p><b>〈課題〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習に対する意欲の個人差が非常に大きい。</li> <li>リコーダーの学習では、運指が確実ではない児童が数名見られる。</li> <li>音符、休符、記号など基礎的な内容の指導を継続し、身に付ける必要がある。</li> </ul>	<p><b>〈学習状況の現状と課題〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>題材によっては表現するために必要な技能が十分ではない。</li> <li>音楽に関する語彙が乏しく、聴いて感じ取ったことを言葉にすることが苦手である。</li> <li>音楽的な表現を楽しみ、生き生きと音楽活動に取り組む児童が多い。一方で、表現への意欲が低い児童も少数見られる。</li> </ul>	<p><b>〈指導方法の課題〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別指導を効果的に行っていくことが課題である。</li> <li>授業者が話しすぎて、児童が受け身になっていることが多い。</li> <li>一人ひとりの表情を見て、理解の遅い児童や活動に集中できない児童などに、適切な声掛けをすることが十分にできていない。</li> </ul> <p><b>〈授業改善策〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>素晴らしい表現の視聴覚教材や友達の演奏に多く触れる機会を作り、児童がすすんで表現してみようとする雰囲気を作る。</li> <li>授業の随所で机間指導や個別指導を効果的に行い、分からない児童や頑張っている児童に声をかけるようにする。</li> <li>担当する全ての児童の名前や音楽に対する態度などの把握に努め、その子なりによい表現をしていたときなどを逃さず褒めて音楽が好きな児童を育てる。</li> </ul>
第6学年	<p><b>〈成果〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>概ね意欲的に学習に取り組むことができた。</li> <li>響きのある声で3部合唱に取り組むことができた。</li> <li>グループ活動やペア学習などの少人数での活動を意図的に取り入れ、積極性を促すことができた。</li> </ul> <p><b>〈課題〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の学習が大幅に遅れ、それに伴い、児童の習得状況に大きな差が見られる。</li> </ul>	<p><b>〈学習状況の現状と課題〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽的な表現へのあこがれや意欲をもっている児童が多数みられるが、題材によっては表現するために必要な技能が十分ではない。</li> <li>音楽に関する語彙が乏しく聴いて感じ取ったことを言葉にすることが苦手である。</li> <li>音楽的な表現を楽しみ、自らの思いを演奏に生かそうとする児童が多い。</li> </ul>	<p><b>〈指導方法の課題〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現に必要な基本的な技能を身に付け、自信をもって演奏に臨めるようにすることが課題である。</li> <li>学級全体で表現を高め合う雰囲気をつくっていくことが課題である。</li> <li>全員が達成感や充実感を十分に味わうことができる授業になっていない。</li> </ul> <p><b>〈授業改善策〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>互いの演奏をよく聴き、相手の演奏の良さを言葉にして伝え合うことを習慣化させることで、皆で一つの曲をつくり上げる素晴らしさや達成感を味わえるようにする。</li> <li>音楽表現に対する意図や音楽鑑賞で感じたことなどを伝える際、どのように伝えたらよいかのわかるように「音楽でよく使う言葉の例」を掲示しておく。</li> <li>児童によって音楽的な知識や技能に差があるので、段階的な課題を準備して各自が目標をもてるようにする。</li> </ul>